

磐城時報

日刊 九廿夕
編輯部 石城郡平町四丁目
印刷部 石城郡平町四丁目
電話 二五五
代金 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 一行一ヶ月五元 一月一元
印刷費 一行一ヶ月五元 一月一元
日刊 (一) 毎朝発行

大した修正もなく

平町豫算可決

御大典奉祝費は増加

平町會は二十九日午後一時から開會し昭和三年度豫算並に大正十五年度決算を協議したが、豫算の修正案左の如く、修正通り全部可決した。

◎一般豫算

▲歳入ノ部
▲第二項小學校臨時指定寄附金四百五十一圓を金一圓と修正す
▲縣稅家屋稅附加稅金一萬四千圓を金壹萬四千二百九十四圓とし縣稅營業稅附加稅金一萬六千九百九十二圓を金一萬六千六百圓とし縣稅雜種稅附加稅金二萬六千六百五十一圓と修正す
▲歳入合計金四十四萬一千九百八十三圓を金四十四萬一千五百三十三圓と修正す

▲歳出臨時部
▲大典奉祝費金五百圓を金八百圓と修正す
▲土木費中道路費金八千三百圓を金六千五百九圓と修正す
▲町是調査費金二百圓を金五百圓と修正す
▲歳出臨時部合計金二十三萬六千九百九圓を金二十二萬九千七百七十五圓と修正す
▲歳出總計金四十四萬一千九百八十三圓を金四十四萬一千五百三十三圓と修正す

▲歳入合計金四十四萬一千九百八十三圓を金四十四萬一千五百三十三圓と修正す
▲歳出臨時部
▲大典奉祝費金五百圓を金八百圓と修正す
▲土木費中道路費金八千三百圓を金六千五百九圓と修正す
▲町是調査費金二百圓を金五百圓と修正す
▲歳出臨時部合計金二十三萬六千九百九圓を金二十二萬九千七百七十五圓と修正す
▲歳出總計金四十四萬一千九百八十三圓を金四十四萬一千五百三十三圓と修正す

理想的に改造

不用地を賣つて財源にする

平刑務所は昨春縮少後郡山市に坪十圓位に見積り二萬五千圓の於ける福島刑務所出張所と殆ん賣却代を財源とし殘る八百坪に於ける大差ない刑務所を造つてゐるが少なくとも五六百人を收容し得る同所關係の石城地方には二萬餘の獨房と雜居房を設け一丈二尺の炭礦労働者其他を有し爭議の總外國を鐵筋コンクリートの等の場合一時に百名近くの收容水久堅固なものに改め房の構造等を見る事珍らからず主務省等は主として刑務被囚人を救ふても此点を考慮し明三年度に於一時の拘禁に過ぎない趣旨に則て縮少の一面に適當の改造を計り理想の設備を施すらしく外部に畫されてゐる、其設計内容は詳細の図面を附し各部は許され細でないが大體現在敷地の中縮る限り人らしい取扱いの出来る少による不用地二千五百坪を一やうになるらしい。

石住の山火事 損害六萬圓

石城郡平町村地内國有林約二十町歩は去る二十四日の烈風で山火事を起し焼失した事は既報の如くであるが、更に同日石住村

法曹界の長老 漆畑氏平町を去る

人間味の豊かな人として 浦和行きを惜しまる

言界を退いて辯護士となり地方人のために大いに活躍しその傍ら或時は石城憲政會長として又はその顧問に推され政界に重きをなし、所謂地方中心人物として重要な地位にあつた人である殊に同氏は、往々にして冷やか

山火事起り烈風にあふられて平町法曹界の長老辯護士漆畑元君は又東京市外に乗り火は四方にひろがり上遠野、入吉氏は今回平町を去つて埼玉縣浦和市に轉住するといふ噂が専ら三村消防總出での活動を見たがらであるが、仄聞する處による判所豫算審判事として來りその後

木炭組合事務所 移轉はおぢやん

提 案 撤 回

濱三郡木炭同業組合事務所を平町から富岡町に移轉する計畫をたてて二十七日、二十八日兩日平町に開かれた總會に提案された町に開かれた總會に提案された

小名濱町代表者 商港問題で上京

伊東知事と共に促進陳情

小名濱商港問題はその後議會の出席中の伊東知事に商會の上商が、協議に先だつて双葉郡代表員秋本林太郎氏は事務所を平町にいた方が便利であるから濱野平外敷氏は午前五時五十分の二十九日出発する管であ

東部設置 期成同盟會

第三期

前に述べた如く擔稅能力の少ない中流階級以下の町民に對しては有産階級以上に課税の苦しみを當めざるは杜撰極まるに對し學者はさきに伏見町長を對し考慮すべき必要あることを力説したが、伏見町長は他に新財源がない今最も適當なる方法をとつたものであるといはれたが、平町に現在検討すべき新財源がないか否かを詳細に調査して見ると幾多の財源が発見される

明年豫算に對する私見 (三)

福島新平支局 渡 邊 文

その一例をあげて見ると、明年豫算に計上されてゐる占用料百圓といふ款目がある。これは町道に立てた東部電力株式會社の電柱一本に就き年額五十圓の稅金であるが、道路占居及び占居料の徵收條例に電柱一本の年額五十圓といふ法外に安い稅金を徵收してゐることは全國ではないといつても過言ではない、吾々人類生活には一日として缺くべからざる飲用水に對しても莫大の施設費を用いたといふ

ことによつて専用栓は一滴の水を使用しなくとも毎月一圓三十九圓の使用料は必ず徵收される、共用栓もその通り料金を收めねばならない町上水道維持費がある然るに上水道施設を要した町道を一營利會社が自己營利のために折角の道路をほくりかへ電柱を立てやうが瓦斯鐵管を埋設しやうが更にたかまへなすといふ矛盾も甚だしいことが今日平町では公然と許されてゐる、成程こうした立派な町道使用に對し使用料を徵收しない平町の頭の良い理事者連中であらうから財源といふものはさう

いふものでござりして産まれてくるものか一向に構へないもので町民から租稅を徵收する以外に財源といふものはないものと思つてゐるのも無理からぬことである、本文が紙上に載る頃は本會議で多少の修正を見ただけで相も變らず杜撰極まる當局提出の原案が大した修正もなく通過し中流階級以下の大多數の町民は以前に倍した塗炭の苦しみを覚えてゐることにあらう、今郡山市の道路占居及占居料徵收條例を摘記して見る、郡山市では大正十五年の豫算市會に於て議場一致右條例の可決を見たもので目下條例の定むるところによつて徵收してゐる

江名濱の發動機船 茨城沖で發見

乗組員無事

石城郡江名町川端野野房吉(三)が船長となり五百馬力の發動機船に作山淺次郎(四一)外二名が乗込み廿七日朝同町長崎沖に出漁したが廿八日朝に至るも歸港せぬので同夜暴風に難破したのではないかと救助船を出し搜索の結果江名町の搜索船が茨城縣大津沖合に漂流中を廿八日正午頃發見救助したが一回は無事であった。

野崎氏 出願を撤回

平町野崎滿藏氏經營の平自動車部では、江名間の沿道各町村長の希望により自動車部を平野内に引入れたいと其筋に向つて願書を提出したが、平挽子業者はその營業に關係する事であるとして反對し陳情書を平野長に提出したので野崎氏は之を諒とし撤回する事になつた。

高野先生 追善素論

平町平喜多會並に平喜多會稽古會では合同主催で故高野先生の追善素論會を三月十一日午前十時平町住吉屋本店に開く筈で會費一圓五十銭、番組は竹生島、田村、湯谷、百萬船、辨慶の外後藤三氏の弱法師、仕舞は嵐山、鳥頭等がある。

映画 神文 (二)

二十一日脚は神文を奪はれては自己の死命を制せられたものである。神文の代償として要求した神文の若き二人の女性の悲劇が生れる。

根の方は神文の戀を知つてゐる。根の好物を以て奪ひ返さうとしたが、好物の妖僧は中々其手に乗らない。目撃し涙に咽んだ。根は一千兩の金を作らなく進まぬ可人の縁談を余儀なく承諾せしめられた。春方は春房の死罪を知り、春房を救ふ決心した。神文は娘を賣つた金で神文を取返すべく春方に依りて自及した。山科の悪僧の許へ赴いたが、春方は取られた物をかまされ金手は立つ者は救はれぬ。春房は取られた物をかまされ金手は立つ者は救はれぬ。春房は取られた物をかまされ金手は立つ者は救はれぬ。

時報文藝 夢

石川 勝子
時として思ひ余りて涙しつゝ、すがりし人のむねをたもほゆうたゝねの夢の中にも人は居て、かりそめの世の戀をかたりぬ。うかれ男と知らばこの世の夢にさい進はず語りにすぎせしものを。

簡便の金 堅實の誠
大免 大蔵 許臣 磐城 無盡 商會
本社 植田町 支社 平町 支社 中町
【電話一七九六番】
縣内に到る取扱所に何時でも
申下絶すに會員を募り

赤心堂病院
産科婦人科部主任トシテ
醫學士野秋善直新任ス
平町田町 電話四七五
外科、耳鼻科、泌尿科
院長 新妻由五郎
主任 野秋善直
主任 小林四郎
主任 木下寅市
主任 光線科、藥局

昭和三年度
春の粧ひ!
新柄が豊富に
取揃へました
是非御覧下さい
新模倣銘仙
新京御召
陳小紋錦紗
列帯 側
平町 三井英服店
電話三八七五

牛豚肉特價
提供
牛 中 肉 百匁 金 三
豚 中 肉 百匁 金 五
口 中 肉 百匁 金 七
豚 中 肉 百匁 金 九
口 中 肉 百匁 金 十
廉賣王 深谷牛肉店
電話五二四番

超特別大興行
三月一日ヨリ
大好み映畫
完成上松之助が心血を注ぎ
故に大衆未だ
大連映畫總動員
日活映畫部特大大映畫
關西派超大大映畫
原松竹地寛 婦女界外連載
原松竹地寛 婦女界外連載
原松竹地寛 婦女界外連載
原松竹地寛 婦女界外連載

平野藥舖
特約店
平町四丁目(電話百四十四番)

産科、婦人科部主任トシテ
醫學士野秋善直新任ス
赤心堂病院
平町字田町(電話四七五)
外科、耳鼻科、泌尿科
主任 新妻由五郎
主任 野秋善直
主任 小林四郎
主任 木下寅市
主任 光線科、藥局

常磐第一ノ磐城炭礦ノ炭礦
大ナル炭礦
石炭ニコークスの特長
ドーシテ、アンナ良イ品ラ、ソナニ安ク賣レルカ、
レ、一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト
イクスノ特長デス。
石炭ハ、正十貫目一俵金六十五錢也
平野前
電話三三七番
阿部石炭商店

和洋銅鐵
金物問屋
釜屋商店
磐城平 電話一九三九番
確確實實速はの生命なり!!!
福島縣平町
山崎合名會社
電話(營業部専用)一〇番
(一般用)二七番
振替東京一九七五番
上野車坂四三
東京支店
電話下谷五七二番
振替東京六八三二番